北

喪失われゆく大自然 北の都は開発かれて

寮の姿も変われども の名は永遠に

残雪溶けて東風吹か

湿原に咲く花影なし 川流絶えて水は涸れ 大地は黒々と輝けど

緑葉さわぐ楡の森りょくよう

ただ寥々と佇立まう 短き盛夏の夕陽を浴びて 昔日の影すでになく

までのこの眺望

白雪烈風に舞い上がはくせつかぜまります。

樹影に黒き鴉鳥 寂莫として声もなし

疎々たる杜を吹き抜きな

けぬ h

行方も知り 警問性が 心 の痛みつのるかな の夜は未だ明けず の鐘鳴らせども 'n ぬ朔風に

虚空逍遥う月の影

北に旅した てこの宿に

懐かしさ満つこの団居 過ぎし歳月早二年 仮寝の夢を 貪りてかりね ゆめ むさぼ